

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 柏寿会

福光園ケアハウス老楽園

特定施設入居者生活介護、

介護予防特定施設入居者生活介護

〒021-0902

一関市萩荘字大袋 306番地1

電 話 3 2 - 2 5 1 0

F A X 3 2 - 2 5 1 1

目次.....	1
1. 沿革.....	2
2. 運営方針.....	2
3. 事業実施内容.....	2～9
4. 当年度の目標の反省.....	9
5. 入退居の状況.....	10～11
6. 入院・通院状況.....	12
7. 介護度の状況.....	12
8. 行事实施状況.....	12～13
9. ボランティア、慰問、実習の受け入れ状況.....	14
10. 研修実施状況.....	14
11. 事故報告.....	14
12. その他.....	15
13. まとめ.....	15

1. 沿革

ケアハウス老楽園は、平成 17 年 3 月 12 日、一関市萩荘大袋に開所しました。

利用定員 20 名、職員 5 名で事業を開始し、同施設内には、老楽園デイサービスセンターが併設されています。平成 22 年 4 月 1 日には、本部の福光園特別養護老人ホームが大袋に移転新築され、二階部分に特定施設入居者生活介護、利用定員 20 名が増床されました。介護付きケアハウスの開所により、ケアハウスの入居者にとっては、住み続けられるという安心感が強まりました。

2. 運営方針

事業の目的

要介護状態となった場合でも、その利用者が可能な限り、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護、その他日常生活の支援、機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持及び利用者の家族の身体的負担の軽減を図ることを目指す。

又、個々の尊厳を重視することで、自分らしさや生きがいの構築をサポートしていく。

3. 事業実施内容

① 食事の提供

共通して

・日々変わる入居者の状況に合わせ、食形態を変更、食欲が沸くような声掛けの工夫、毎日の食事を美味しく食べて頂く工夫を意識することが出来ました。制限食の方も増えていますが、糖尿病だから、脂質制限だから、塩分制限があるからに囚われ過ぎず、どうすれば好きな物が食べられるか？工夫出来る場所はないか？についても、意識出来ていたと思います。

・コロナウイルス流行により、外出・外食の制限が出ています。ユニットに引きこもり、給食は美味しいけれど、たまには違ったものを楽しんで食べる機会をと、おやつ作り・食事作り・外部注文による食事等、楽しみを持てる食事を提供することが出来ました。機会は以前よりも少なくなっていますが、1 回 1 回の楽しみを大切に支援を続けていきます。

・食で季節感を意識し、ワラビ・たけのこ・バツケ・とうもろこし・メロン・さつま芋等、季節のものを自分で調理して食べる機会、今年も続けています。旬を味わうことで、味覚や視覚からも季節を感じて頂けました。

・玄米ご飯の日は続けて毎週月曜日、昼食を味噌おにぎり等に調理して食べています。しかし、スタッフの人数減ということもあり、入居者様と一緒に楽しんで作る場合と、職員だけで作ってしまう場合に分かれてしまっています。おにぎりの味も紫蘇を混ぜたり、ゴマを混ぜたり、バツケ味噌で作ったりと工夫していますが、味に飽きてきている様子があり、今後

改善が必要です。玄米を食べることで、身体への変化はみられていません。

おらえ

- ・日常の会話から「これ食べたいよね」「そろそろ〇〇が出始める頃だね」を拾い、食べる楽しみに繋げることが出来ました。
- ・歯の不具合で食べたいものが食べれない、周り食べているものが違うと比べてしまうと、やわらか食ができて、皆と変わらないものを食べる事ができています。
- ・外食だけでなく、買い物に出掛けて好きな物を自分で買って来て食べる機会は、コロナ禍の為、介護補助員と協力しながら買い物代行をし続けることが出来ました。
- ・「みんなと一緒に揃って食べる」と思う方が殆どでしたが、「私より先に出して」と思う方も居り、配膳の順番に気を付け、待たせてしまわないよう工夫しています。
- ・糖尿病以外に脂質の制限がかかってしまった方もおり、どうしたら食べる事が出来るか考え工夫し今後もつなげていきたい。

CASA

- ・今まで行えていた【外食】が出来ない状況ではありましたが、干し柿・山菜・枝豆・冷やし中華等…季節を感じられるものを一緒に作り、食べることは継続して行えています。ADL低下や持病の悪化により、食事作りのメニューやおやつを食べられない方が増えています。刻んで食べやすくしたりミキサーにかけてみたり、お粥に少し混ぜる等、その方々も「一緒に食べられる」「季節を感じられる」工夫をして支援しています。
- ・食事が進まなくなった方に対して、ご飯ではなくお粥やパンへの変更、普通食からやわらか食やミキサー食への変更等、厨房との連携を取り、食べやすいものを食べて頂けるようにしています。
- ・毎週1回の玄米おにぎりの日ですが、毎週だと飽きてしまうのか、普通通りのご飯やお粥を希望されたり、出しても残される方が多くなっています。入居者の方に負担を強いることになっていないか？様子を見つつ、今後どうしていくか検討します。
- ・入居者様から教えて頂いたレシピで一緒に料理をするという機会を作ることが出来ました。はっと名人の入居者様、「私昔からこうやって皆に教えてるの」と得意げ、久しぶりに自分で作れたことも自信に繋がったようです。今後も、入居者様の家のレシピ、料理の知恵等があればお聞きして、一緒に作って頂けるようにします。

② 入浴

共通して

- ・入浴前血圧を測定することで体調に考慮した入浴が定着しています。
- ・入浴剤のコスト削減が出来ています。安価な入浴剤になってはいますが、色や香りも良く、皮膚トラブルも見られていません。入浴剤の種類を自分で選んで入浴、心身のリフレッシュに繋がっているようです。
- ・入浴を拒否される方へのアプローチの工夫をしています。どうして入りたくないのか？どんなタイミングでどうお声掛けすると良いか？を考え、観察していくことで、気持ち良く入浴出

来る環境作りに繋がっています。

・入浴方法にこだわりが強い入居者様への対応に頭を悩ませることが多くありました。こだわりを職員が 100%理解すること出来ず苦情に繋がったり、気分を害されてしまうことも多々みられ、職員間で入浴方法の確認、申し送りを何度も行っています。現在は苦情なく、気持ち良く入浴されています。

おらえ

・入浴を拒否している方はどうして入りたくないのか、職員が原因に目を向けるようになり、声の掛け方や時間帯、入り方を見直す等、改善策を皆で出し合い、支援方法を工夫し、対応に繋げることでできています。

・入浴介助に入る職員が固定(勤務で日勤者が固定されている)されたことで良い面は多々ありますが、一方でたまにしか介助に入らない職員が入浴対応をすると、不慣れ、「いつもの入り方」が分からない状況があり、ユニット会議の際に対応の仕方に変更あるか、こだわりのある方は対応の仕方をメモし情報を共有するよう努めています。今後も課題です。

・入浴時に体に外傷は無いか確認をする事となっていますが、表の活用が定着出来なかった為、置く場所やどのような表がよいのか検討します。

・趣味に夢中で、入浴はお昼前を希望される方がいました。対応が難しく、園長よりお話しして頂き、11 時前に入浴をして頂くよう相談・お願いすることがありました。

・ハラスメントによるもの、女性対応の入浴で職員が、対応に入れない入居者様の入浴対応については、他職員が対応を変わって入浴できるようにしています。また、職員の人数が取れない時にご本人の希望で午前中しか入れない方に関しては、事前に入浴日の相談をし、入れない日が続かないよう、不満に繋がらないよう配慮しています。

・移動は車椅子の方でも立位が取れる方はリフト浴ではなく、物の配置を工夫し個浴で入れるよう工夫をしています。リフト浴の方で、肩まで浸かれないため、浴槽内で吊るしベルトを調整したいと要望ありました。事故に繋がる事を理解して頂き、かけ湯をして温まって頂いています。

・本人希望でシャワー浴の入居者様より掛け湯を要望され、浴槽の湯が半分ほどなくなる程の掛け湯をする状況があったがシャワーホースを長くしたことにより、今も職員の身体面も考慮しながら、要望に応えることができています。

CASA

・入浴中はリラックスして頂ける為、色々な話が出来る場になっています。忙しく過ごすのではなく、ゆっくり過ごして頂ける関わりの方として今後も大切に支援をしていきます。

・体調不良や入浴拒否等で入浴の間隔が空いてしまう時には、身体清拭や衣類交換等をこまめに行い、身体の清潔を保てるように支援を行っています。

・入浴拒否のある入居者様、このように声を掛けると良い、このタイミングだと良い…等をスタッフ間で申し送り、嫌な気持ちにさせず入浴して頂けることが増えました。

・体調に応じて個浴やリフト浴等を使い分け、無理のないように入浴して頂くことができています。入浴の仕方にこだわりのある方の対応は一定のスタッフしか行えないことがあり、日

程に無理が生じることもありました。

・入浴時・通常時の身体状況確認表の活用が上手く出来ていないことを前年度も課題に挙げていましたが、今年度も同様の課題が挙げられています。今後の使用の仕方について検討することにします。

生活相談・健康相談

共通して

・通院の付添い・送迎に関して、定期通院以外に、ご本人、ご家族の要望により、又健康管理の面から、随時希望の病院への通院送迎をしています。

・コロナウイルス流行に伴い、面会制限が出ており、以前のようにご家族と一緒に通院する機会が減っています。体調の変化、心身の変化についてご家族と情報共有が難しい状況ですが、こまめな電話報告を心がけることが出来ました。

・定期健康診断の結果を通院時に主治医に報告しています。

・毎日2回の定期検温、入浴前の血圧測定により早期に体調の変化に気づき、通院に繋がっています。また、不調を上手く伝えることが難しい方も多く、普段の表情やしぐさをよく観察し、いつもと違う時には看護師や他職員と相談し、通院等迅速な対応を心がけています。

・生涯担当の職員に関わらず、ユニットのスタッフ皆で一人ひとりの変化に気づき、安心できる暮らしを送って頂くよう努力するも、気付いて行動に移す職員は限られてしまいました。介護のスキルアップ、気付く目養う、気付いたら行動に移す、活気あるユニットを目指していきます。

・LINEを活用し、心身の状況をご家族と共有するツールとしていましたが、プライバシー保護の観点から文章・写真や動画のやり取りが禁止となっています。ご家族からはLINEを活用した情報の共有を強く望む声も聞かれています。

・ハラスメントの対策として、事実をケースに入力し、場合によってはご家族へ電話にて報告をしています。誠意ある対応を心がけ、職員間でもフォローし合い、住みやすい環境、働きやすい環境作りに努めています。

・入居者様から生活のストレス・不満の相談を受けることが多くありました。しっかりと話しの内容を伺い、気持ちに寄り添った支援を心がけることが出来た半面、他入居者様への不満や職員と馬が合わないことでの不満については返答に困ること多く、問題解決に繋がられないケースも出てしまっています。入居者間トラブルについて、職員の心がまえ等の勉強会をしたり、会議の中で議題に上げて話し合うことで、安心できる暮らしに近づけるよう努めています。

おらえ

・入居者様同士で築いた関係性を保ち仲良くされる入居者様もいましたが、歳相応の忘れや、認知症により依存しやすい関係性となり被害的な思考になってしまったときに「警察を呼ばなければ」とお互いに悪い方にすすんでしまうケース、金銭や物のやり取りをしてしま

うこと、粗暴行為に繋がってしまったケースもあり、様子の変化に気付き、早期に対応できるように努めています。

・性格的にあわないと思われる方、言動が気に入らない方、認知症の方への理解を得ることが難しい方がおり、人間関係の面で配慮しなければならない場面が多く、会話術が求められ、今後も課題です。ストレスに感じる事があったと思いますが、職員が間に入り声を掛けやすい・話しやすい雰囲気作りを意識し、不満や不安を受け止め今後はどうしていくか考えることができるよう努めています。

・認知症の症状、被害的な思い込み、性格的な所の部分で、入居者様との間でのトラブルが多く、どんなことでトラブルが起こりやすいかを表にし、両ユニット職員・事務所・看護師と共有し、未然に防げるように努めたが、防げないトラブルもあった。

・入居者様より「あなたにしか話していないのに何で他の職員が知っているの？」というケースがあり、話された内容の中で職員間で共有・注意していかなければならないことについては、一言添えて職員間で周知したいことを伝えるようにしています。

・対応の差で「あの人はこうで、あの人はダメ」のように差が生まれることがあり、職員間で対応を確認しています。対応が出来ない要望もあったケースもあるため、要望を受けた時に直ぐには返答せず、皆と相談をしてからお伝えすることを伝え、説明するようになっています。

・入居者様の対応や日々の変化について、受け止める職員によっては重要度に差があること、申し送りが繋がらないことがありました。申し送りの工夫、伝え方の工夫、どのようにしたら共有が出来るのか探っています。

・コロナ禍となり面会に制限が掛かり、ご家族との情報の共有が難しくなりました。入居者様と家族がある機会も減り、一筆箋を送っていない入居者様には送るようにし、一筆箋を通して少しでも日々の様子が分かるようにしています。今後もどのように共有をしていくか課題です。

・入居者様より特定の職員に対してのハラスメントがあり、対応に入れなくなった職員がいます。職員は両ユニットで協力しながら対応しその方の生活を支えています。入居者様からの威圧的な場面があった時の対応の仕方を共有し冷静な対応に努めています。

CASA

・毎月、全員のご家族へケース記録と写真入り一筆箋をお送りしています。コロナ禍で面会が出来ないこともあり、老楽園での生活の様子をお伝えする為の大切な手段となっています。

・以前は面会時に、ご家族様それぞれに対して入居者様の状態をお伝えすることが出来ていましたが、面会が出来ないご家族が多く、ケース記録や一筆箋も送付されない方は、以前に比べると距離が出来てしまっているように思います。より身近に感じて頂く為に、ラインを活用して様子を写真や動画に撮って送る工夫をしていましたが今はそれも行えておらず、今後入居者様とご家族との関わりをどのように繋いで行くかが課題です。

- ・ケース記録は入居者様の支援に関するマイナスな部分の記録もある為、会話の内容や、楽しんだことも伝えられるように心掛けています。今まではほとんど午前中は早出が、午後は遅出が中心となってユニット対応を行っていた為、全体としての様子を把握しやすかったのですが、入浴対応が重なったりすると所々の様子を見られないことがあります。その間は出来る限り対応していたスタッフが入居者様の様子を入力できることが理想です。
- ・入居者様の疾患により、食事制限や薬の管理等、入居者様の意に沿わない生活を強いられる場合があります。職員に非が無い場合でも、毎日のように不満をストレートに伝えられる場合もあり、職員・入居者様双方へのフォローが必要な状態です。
- ・担当だけにこだわらず、入居者様が相談しやすいスタッフへ相談して頂いたことは皆で解決していけるように取り組んでいます。何かを変更する時には各自担当スタッフへも伝えて一緒に考え、色々な目線からの問題解決を目指しています。

③ 余暇活動の支援

共通して

- ・季節感を大切にしたい暮らしを目指していますが、コロナウイルス流行に伴い、外出の制限や面会の制限があり、ユニットに引きこもりの暮らしが増えてしまっています。その中でも、室内で出来る楽しみに着目し、支援を考える機会を多く持つことが出来ました。外出も、気分転換に車から降りないドライブの企画も立て出掛けています。
- ・季節の装飾、両ユニット特色が違うものの、皆さんと一緒に作ったり見て楽しむことが出来ました。
- ・コロナウイルス流行に伴い、民謡教室や大正琴等が中止となっています。個々の得意に着目し、大人数での活動ではなく、個別に習字や手芸、歌をうたう、ゲームをする等の暮らし方に変化しています。
- ・ユニット玄関の鍵を昼間は開放し、入居者様の自由な暮らしを目指しています。ケアハウス一般型と連携を取り、内線にて声を掛け合っています。

おらえ

- ・コロナウイルス流行により外出ができない、大きな行事も縮小しユニットで完結となった。その為、ご家族と一緒に行事を行う機会は持つことは出来ませんでした。
- ・入居者様の状態の変化、体力的な面で遠方へ外出したいと要望される方は減り、行くならば近場で外食が多いが、今年はコロナ禍のため外食は出来ていない。外食が出来ない分、回数は多くないがテイクアウトを活用し食べたいものを食べるように出来ました。
- ・外出が難しくなったなか、トランプや散歩などの日々の余暇活動は、スタッフによっては自分の得意な所(歌が得意、レクが得意)で時間をみつけて行うことが出来ています。だが、スタッフによっては偏りがある為、どのスタッフも出来るようにすることは今後も課題です。
- ・外出時に違う日に予定にしていなくてもなんでも人だけ…となる事はあったが、お散歩でも、皆も行くなら私も一緒に行きたいと思う方は多く、個別より数人で外出・散歩する機会は多

かった。

・入居される前から民謡、俳句等してきた入居者様が趣味を続けられるよう、得意な事を敬老会で披露していましたが、今年はコロナ禍もあり、皆に見てもらおうこと、家族が喜ぶと生きがいされ、ユニットに飾り作品を掲示しています。

・個々の余暇活動を探る中、本が好きな方では、移動図書で好きな本を用意して頂く、体操は習字・俳句等とその方の趣味に合った本を用意することができました。趣味活動をしていると落ち着いて過ごすことできる方もいますが、終えないとご飯を食べませんと生活に支障をきたしてしまったり、落ち着いているからやらせているような行動を制限してしまわないように支援していきたい。

・麻雀を好きでされていた方、起きていた事が大変ということで、テレビゲームからタブレットで麻雀を続けることが出来るように、形を変え趣味を楽しみ続けることが出来ています。Wi-Fiの環境も整い、ゲーム環境がよくなりました。

・ユニットの装飾は、皆で一緒に作ることは難しく、装飾を見て季節を感じて頂けるようにしています。

CASA

・このご時世なので、外出支援はほとんど行えていません。お花見、紅葉ドライブには車内から観るだけ、での外出はしています。外出できないことをストレスに思う入居者様もいらっしゃるのですが、そういった方は今まで以上に気にして声を掛けるようにする、外の様子を伝える、情勢が落ち着いたら…等の前向きな話をするようにしました。

・こまめにCDで歌を流して口ずさみながらゆったりした時間を過ごして頂く等、ただテレビを観ているだけ…にならないように努めています。

・ラジオ体操や、ただ体を動かすストレッチ等、入居者様主導で行うことも増えています。「体操しよう」との声で、皆さんと一緒に身体を動かすようにする機会が増えています。タブレット端末を活用し、映像を観ての体操が出来ることが良いようです。

・移動図書館で、どういう本を皆さんが読むのかを図書館の職員へ伝え、移動図書の時に選んで持って来て頂くようにしました。本を並べておき、自由に手に取って選んで読んで貰えるようになっています。沢山本を借りる入居者様は、個人のカードを作成し、同じ本は持って来ないように配慮をして頂ける環境になっています。

・裁縫、編み物、歌、体操等、職員それぞれで自分の出来ることを活かして入居者様と一緒にすることのできることを探し、実践しています。「毎日をなんとなく過ごす」「皆で一緒に何かしましょう」ではなく、入居者様の興味のあることを選んで頂けるように、更に様々な選択肢を準備し、実践していけるようにします。

④ 疾病や災害等、緊急時の対応

・身体の悪化や健康状態の対応としては、ナースコールでの対応、看護員の判断による通院、急変時の対応や各所への連絡と、迅速な対応が来ています。

- ・災害時の緊急対応については、避難訓練を実施し、災害時できるだけ慌てず対応出来るよう備えて行きます。
- ・災害、急変時どちらも慌てず対応出来るよう、こういう時はこう動く等、日々の申し送りの中で想定出来ることを確認し合い、心構えを大切にしていきます。大きな地震ありましたが、怪我人も出ず慌てない対応も実行出来ています。

4. 当年度の目標の反省

重点目標の反省

令和2年度(下期～)の重点目標

・入居者様を中心にご家族・スタッフが情報を共有し、自分らしい生活の継続を支援します。

・職員一人一人が自分の長所を活かした目標を設定し、入居者様とより多くの時間をもち、より楽しく、より笑顔になれるよう支援します。

・コロナウイルス流行に伴い、面会の制限を強いる窮屈な生活となっています。その中でも、感染症対策として面会時の健康チェック、シールドを立てて飛沫を予防した面会環境、消毒の徹底等、工夫しての面会が出来ています。また、LINEを活用してのテレビ電話、直接会うことが難しいご家族へは窓越しで顔が見える面会を実施、ご家族との繋がりを大切にした支援をしながら、こまめな電話連絡と相談の機会を設け、ご家族と一緒に支援していく姿勢を変えずに暮らすこと出来ています。

・制限の多い暮らしの中、自分らしさを出しにくかったり見つけにくい環境になってはいますが、本来の個別ケアって何だっけ？基本に返り、立場になって考えるようにしています。しかし、職員目線で物事を考えてしまう場合もある為、職員間で遠慮せず意見を交換し合える、アドバイスし合える雰囲気作りが必要と感じます。

・職員一人一人の長所を活かした目標の設定、忘れがちになってしまいました。日々の業務や暮らしに追われてしまうと、どうしても忘れがちになってしまう為、今後は自分の目標を声に出して発言する、周囲のスタッフも相手がどんな目標を設定して支援しているのか理解し、サポート体制を整えるように工夫していく必要性を感じました。

その他

・職員の異動、退職等が続き、以前より少ない人数でのシフト勤務が続いています。早出、遅出、夜勤と変則勤務が出来ない職員が多く、スムーズに業務と業務をバトンパス出来ない場合があります。時間を有効活用、動き方の工夫、役割分担の確認等工夫しながら、入居者様の暮らしを何とか支えている状況です。その中でも、園長を始め事務所・看護師・介護が協力し、「自分の領域外」と思わずに支援する意識のもと全職員で入居者様の暮らしをサポートしています。

・職種の違いなく、相談をしたり助け合う、意見を交換し合う雰囲気が出来ています。

・申し送りが繋がらないことが多々あり、入居者様の日々の暮らしが職員の入替わりで途切れてしまう傾向にありました。各ユニットとも申し送り方の工夫をし、目で見て分かる申し送りの工夫をしています。また、誰かがやってくれるだろうという気持ちを持つスタッフも居るため、伝え方や声の掛け方の工夫も併せて行い、スタッフ全員が当事者意識を持って支援に当たれる体制作りを目指した 1 年でした。経験不足等から、まだ苦手分野に手を出せないスタッフも居ますが、今後も継続して周囲のサポートを借りながら、苦手を克服し当事者意識を持った支援を目指していきたいと思えます。

5.入退居の状況

(1)入退居状況

令和 2 年度中の入居者 2 名

令和 2 年度中の退居者 1 名

【退居理由】

①死亡退居 1 名

令和 3 年度末の利用者 20 名

(2)月別入退居状況及び充足率

月	月初利用者数	入居	退居	月末利用者数	充足率
4	19	0	0	19	90.8
5	19	0	0	19	91.9
6	20	1	1	19	95
7	20	1	0	20	100
8	20	0	0	20	100
9	20	0	0	20	100
10	19	0	0	20	100
11	20	0	0	20	95.2
12	20	0	0	20	99.7
1	20	0	0	20	100
2	20	0	0	20	99.3
3	20	0	0	20	93.1
計	237	2	1	237	97%

(※充足率は空室・入院・外泊も含める 前年 92%)

(3)入居前住所別利用者数 [令和3年3月31日現在]

入居前住所	計[名]
一関市	17
西磐井郡平泉町	1
宮城県気仙沼市	1
宮城県栗原市	1
計	20

(4)年齢別・男女別利用者数 [令和3年3月31日現在]

年齢(代)	男性[名]	女性[名]	計[名]
～69	1	1	2
70～79	1	0	1
80～89	1	4	5
90～99	1	11	12
100～	0	0	0
計	4	16	20

(5)平均年齢 [令和3年3月31日現在]

	男性	女性	男女
平均年齢	81.8	89.8	平均年齢 88.2
最高年齢	95	97	最高年齢 97
最低年齢	68	69	最低年齢 67

(6)手帳 [令和3年3月31日現在]

性別	種	級	肢体	視覚	聴覚	内部	複合	計
男	一種	2級	2	0	0	0	0	2
		3級	1	0	0	0	0	1
女	二種	4級	1	0	0	0	0	1
計			4	0	0	0	0	4

6. 入院・通院の状況

ケアハウス職員が病院に送迎した回数(送迎で1カウントする)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通院	35	29	36	42	33	32	35	36	34	30	29	30	401
入院	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	3	2	10
訪診	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	47

前年度通院回数 516 回

7. 介護度の状況

[令和3年3月31日現在]

	男	女	計
自立	0	0	0
要支援1	0	0	0
要支援2	0	0	0
介護度1	0	4	4
介護度2	1	2	3
介護度3	1	4	4
介護度4	0	3	3
介護度5	2	3	5
計	4	16	20
平均介護度	3.6	2.9	3.1

8. 行事の実施状況

月	CASA	おらえ	個人活動
4	8日～手作りマスク作り 21日・22日 お花見ドライブ	21日・22日 お花見ドライブ	
5	5日 端午の節句 よもぎ餅 10日 母の日 11日 ○○さん家のカレー作り 20日 タコ焼きパーティー	5日 端午の節句 よもぎ餅 10日 母の日 11日 ○○さん家のカレー作り 27日 しそ巻作り	

6	5日 ポラーノドライブ 8日 バラ園見学・バラ風呂 18日 冷やし中華の会 30日 松栄堂ケーキドライブ	21日 父の日 30日 松栄堂ケーキドライブ	民謡の会 外出 書道 活け花 レクリエーション 買い物 外食 美容院 食事・おやつ 作り 誕生会
7	7日 七夕食事会 21日 大はつと祭り 31日 夏祭り風食事会 老楽園花火大会	7日 七夕食事会 26日 トウモロコシからポップコーン作り 31日 夏祭り風食事会 老楽園花火大会	
8	24日 レアチーズケーキ作り	8日 ちらし寿司作り	
9	15日 老楽園 敬老会	2日 しそジュース作り 12日 夏野菜天ぷら祭り 15日 老楽園 敬老会	
10	1日 お月見 3日 紅葉ドライブ 15日 秋の昼食会 30日 ハロウィーンかぼちゃぱっと 31日～干し柿作り	1日 お月見 15日 秋の昼食会 28日～干し柿作り 30日 秋刀魚つみれ汁作り	
11	22日 芋煮会	22日 芋煮会 29日～お手玉作り	
12	11日 手作りラーメンの会 14日 サヨナラ滝見だんご 24日 クリスマス会 28日 餅つき・忘年会	11日 手作りラーメンの会 14日 サヨナラ滝見だんご 24日 クリスマス会 25日 忘年会 28日 餅つき	
1	1日 新年の会 2日 書初め	1日 新年の会・福笑い 3日 書き初め 11日 鏡開き	
2	2日 節分・恵方巻 13日 バレンタインパフェ作り	2日 節分・恵方巻 13日 バレンタインケーキ作り	
3	3日 ひな祭り 11日～バツケ収穫、料理 22日 お彼岸ぼた餅作り	3日 ひな祭り 19日 バツケ収穫、料理 22日 お彼岸ぼた餅作り	

※その他希望に添った外出を行っています。

9. ボランティア・慰問・実習の受け入れ状況

ボランティア

頻度	ボランティア(団体名)名	内容
月1回	理容 Hair FREE	理容

10. 研修実施状況

(1) 施設内研修

月	研修テーマ
4月9日	接遇マナー・プライバシーの保護・法令遵守・入浴について・マニュアル検討
5月12日	身体拘束禁止・マニュアル検討
6月18日	感染症対策・食中毒・マニュアル検討
7月16日	機能訓練・緊急(急変)時の対応・マニュアル検討
8月12日	コロナウイルス感染症の施設対策確認と発生時のシミュレーション・マニュアル検討
9月25日	排泄介助ケア・マニュアル検討
10月19日	勉強会「認知症になるにはどうということ？」
11月24日	感染症対策・身体拘束禁止・マニュアル検討
12月24日	認知症ケア・介護予防・マニュアル検討
1月28日	終末期ケア・マニュアル検討
3月12日	入浴介助・食事介助・口腔ケア・マニュアル検討 勉強会「介護施設でのご利用者同士のトラブルはどうやって解決するか」

11. 事故等報告

転倒 転落	転倒 骨折	誤嚥	予薬	離設	外傷	熱傷	自傷	その他	ひやり はっと	計
50	1	1	27	0	44	1	10	2	26	221

前年度事故合計 179 件

12. その他

防災計画

避難訓練 令和2年7月15日

総合避難訓練 令和2年10月14日

…反省…福光園と合同で避難訓練を行いました。特定は、二階にある構造上震災・火災で孤立する可能性が考えられるので、普段から福光園・老楽園との協力体制を整えたいと思います。また、河川の氾濫を想定した高台への避難訓練も実施、避難場所は老楽園特定施設で、エレベーターを使用しています。実際の災害発生時には、慌てず対応出来るよう備えて行きます。

13. まとめ

特定型は、令和2度の入居者は2名、退居者は1名でした。退居理由としては、死亡退居1名でした。

特定施設では、現在、要介護1～要介護5までの方が生活されています。平均介護度は3.1(前年 2.7)です。今年度は、新型コロナウイルスの流行により感染症対策に取り組み、いつもとは違う緊張感のある1年でした。入退居は上期に入居2件、退居1件とほぼ入退居はなく、入退院の日数も抑えられ比較的安定、充足率は97%と高値を推移しました。入居希望者は、少ない現状が続いており上期の入居2件も入居まで1ヶ月近く空きが続きました。現在もこの傾向は続いております。

新型コロナウイルスの流行により、ご家族との面会を制限しています。Wi-Fiの工事をしてIパット(タブレット)を導入、LINEを使いご家族とビデオ通話出来るようにしました、遠方のご家族との交流が出来ると思いましたがあまり普及せず、一部のご家族の利用となりました。

入居者間では認知症の進行により他入居者様との関係の構築が困難で思い込みからのトラブルが続きましたが通院治療を受けることで落ち着いております。要望の多い方の対応には苦慮しています、その方を知りご家族とも情報共有をして支援に繋がっています。

また、施設全体で入居者様の暮らしをサポート出来るよう、施設長をはじめ事務所・看護・介護が協力、日々の生活や見守り・緊急通院等がスムーズに行えています。

看護員は依然1名体制の為、医療的な部分の不足が、引き続き課題となります。今後も、入居者様の心に寄り添い喜んで頂けるよう職員一同努めて行きたいと思っております。